

平成28年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田市立上新城小学校

1 本年度の学校評価を振り返って

学校目標「かがやけ いのち ー共に生きる、共に伸びるー」の達成に向けて、重点に『豊かな心』『確かな学力』『健やかな心と体』を育む教育活動を据えて、徳・知・体のバランスのとれた経営に努めた。今年度は、飯島南小学校と共に秋田市教育委員会課題研究推進校「食育」の指定を受け、『『耕一TAGAYASUー』～食をとおしてはぐくむ生きる力～』のテーマのもと、「生きる力」を構成する三つの要素である「健康・体力」「豊かな人間性」「確かな学力」をバランスよく育むことを目指した。食育の推進に当たっては、学校教育目標の具現化を図ることを念頭に置いて、教科・領域等の学習や給食指導「ばくばくタイム」、農業体験、交流活動、いのちの学習など、「食」に関わる一連の活動において児童一人一人の実態に応じた手立てを工夫し、「食」に関する指導の充実を図った。これらの「食」に関する指導の充実を図ることにより「人や食に感謝する心」「郷土愛」「社会参画意識」「望ましい食習慣」「自尊感情や自己肯定感」「学ぶ意欲」を向上させることができた。自己評価や児童・保護者アンケート、学校評議員会・上新城小学校を語る会等で明らかになった課題について、今後、具体的な改善を進めていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> 朝の活動の計画的な運用と週テストの実施、「かがやき学習」といった4年生以上の学力向上のための時間の実施を通して一人一人の力を見取りながら、基礎的基本的な知識及び技能の習得に努めた。 秋田県配信問題を積極的に活用し、単元ごとに子どもの状況を分析することにより課題を把握し、指導に役立てるように努めた。 各種調査や検査の結果を分析し活用を図った。読解力の向上を図るために国語科では複式授業の解消に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容の定着を図るために、引き続き朝の活動等での自学スタイルを提示し、その定着を図る。 家庭学習の内容を充実させるために、計画表の活用や互いにノートを見合うことのできるリレーノートの活用を通して充実を努める。また、保護者にも積極的に家庭学習についての資料を提供し、共に取り組む。 授業研究会や参観等を通して授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に基礎をしっかりと指導しているために落ち着いている。このままじっくりと育ててほしい。 家庭には、家庭学習の資料だけでなく、家庭教育の資料も積極的に提供してほしい。学校と保護者が一緒に育てる意識をもってもらいたい。
	少人数・複式学級に対応する学習形態・指導体制・時間割編成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 社会、国語、理科で複式授業の解消に努めた。また、担任の専門性を活用して交換授業も実施した。 多様な考えを導くために低学年は合同学習を音楽科、生活科、体育科、道徳で行っている。下学年と一緒に時間を過ごすことによって上学年の意識が高まった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 複式授業を効果的に行う研究をする。学年別指導における「ずらし・わたり」による指導を充実させる。 自主的・協力的に取り組む自立解決のためのガイド学習の工夫を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の基礎的な力を身に付けさせるための手立て（複式授業解消）が成果を上げている。 少人数ながらも学び合っているため、子どもたちに発表力がついている。
	小規模校の特色を生かしたり、課題を克服したりする教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 飯島南小学校との交流学習を積極的に行った。年間2回にわたる1日交流の他、学年ごとの食育に関する交流学習を計画的に実施し、いい刺激を受けることができた。 全校体制で行う「いのちの学習」を設定した。外部指導者による指導や食を支える様々な施設の見学を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1日交流は継続するために、時間割設定など両校で細かく計画を立てて実施する。また、学年毎の交流学習の場合は複式学級であることを考慮し交流日や体制について連絡を密に有効な交流を目指す。 「いのちの学習」を実施するための担当者を明らかにして計画、準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他校と交流することで視野が広がっていると感ずる。同じ中学校区の学校交流は是非継続してほしい。 「いのちの学校」の実践は全校で一つのことに取り組むことができ、大変有効である。
生徒指導	異学年交流を通じた集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に異学年交流活動を実施した。様々な活動の中で上学年が下学年の面倒を見たり、手本を示す場面が見られた。このスタイルが伝統となっている。身近な手本を目標にすることができるため、下学年の児童が一生懸命に取り組むことができている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童集会などの場を積極的に活用して、上学年がリーダー的な存在になることができるようにするとともに、下学年を思いやる心を育てていく。 下学年の活躍の場を増やして、自己有用感を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の育て合いが見られる。上学年は下学年にお手本を見せながらリーダー性を発揮している。

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
生徒指導	一人一人に存在感がある学校・学級づくりと、いじめ・不登校等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会で設定した「友だち宣言」をブレイルームに掲示し、全校でいじめ撲滅を目指している。 ・学校生活アンケートの実施とその後の面談を通してコミュニケーションを図り、信頼関係を構築しながら児童の内面を把握するように努めた。 ・いじめ対策委員会を毎月設定し、情報を共有し、全職員で指導に当たることができた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が意欲的に活動し、満足感や達成感を味わうことができるように活躍の場を設定する。 ・学校生活アンケートの項目をいじめ対策委員会などで毎年チェックするとともにアンケート結果の分析を行い、課題を把握し、対応を細かくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートを今後も継続し、子ども一人一人に目を配った指導を継続してほしい。 ・言葉遣い、挨拶など礼儀の指導を今後もしっかりと続けてほしい。
家庭・地域との連携	校報・HP・連絡帳等によるきめ細やかな情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による校報作成を通して様々な立場で学校情報を発信できるようにしている。毎月発行の校報を地区の全戸に配布し、学校や児童の様子を知らせている。 ・安全に関することや子どもたちの活躍について等の連絡をメール配信等を活用してきめ細かく連絡している。 ・HPでも校報を見ていただけるようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校報で伝える情報をより分かりやすく伝えることができるように写真等の資料を整理保管しておく。 ・家庭との連携を密にするために学年通信や連絡帳を活用する。お知らせのほか児童の頑張り等を詳しく伝えるように通信を工夫して作成するようにする。 ・親子料理教室の開催を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校報やHPで学校の情報が細かく伝えられているので、学校についてよく知ることができる。 ・学年通信等を使用して子どもたちの様子をよく発信してくれている。子どもの頑張りなども載せてくれているので励みになる。
	地域に学ぶ体験活動の充実（ふるさと先生や地域の施設等との交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした活動をふるさと先生の指導のもと実施した。伝統的に継続して実施されている活動が多く、活動の中で地域のよさを児童たちは十分味わうことができた。 ・地域の福祉施設を訪問し、作業体験をしたり全校発表をしたりして交流を図った。児童は、施設の方々からも感謝の言葉を掛けられ、活動に自信をもつことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の中で学校の歴史と伝統を感じさせながら、地域を思う心や地域へ貢献しようとする心を育てていくカリキュラムを考える。 ・上新城幼稚園や1年生の出身保育園や子ども園と積極的に交流し、幼・保・小連携を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと先生との連携も密で大きな教育効果がある。 ・家庭教育のための情報を積極的に発信してほしい。地域の教育力アップにも生かすことができる。
	合同開催行事による地域との絆づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新城川の上流で行っているヤマメの稚魚を放流する活動を通して、児童は、地域の環境の保全、命の大切さを考え、ふるさとのよさを守っていききたいと考えている。 ・地域との合同運動会では、地域の方々の声援が励みになり、地域の方々との交流する種目では、児童と地域の方々、保護者が触れ合う良い機会となった。 ・学校・家庭・地域が一体となって「食育」を推進した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上新城六地区保全会の方々との学習を計画し、積極的に授業の中に入れていただき、地域学習を推進していく。 ・地区振興会との連携を密にし、ヤマメの稚魚放流の継続を推進する。 ・合同運動会で町内対抗の種目や長距離種目にも積極的に参加し、地域の一員としての自覚をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と合同の行事も多く、子どもの活躍で地域も活性化している。今後教科学習にもどんどん協力していきたい。 ・防災について町内だけでなく地域全体として取り組みたい。学校地域の防災拠点とし位置付け、今後防災計画を構築していきたい。
健康教育	体力づくりの推進と健康な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・業間に行っているスポーツタイムでは、秋までは5分間走に力を入れ、冬季は縄跳びや一輪車やダンスなどに取り組んでいる。 ・学校歯科医と連携することにより、歯磨き指導や「あいうべ体操」に力を入れることができた。 ・土崎消防署員による救急救命指導で命の大切さと命を守ることにについて考え、救命措置について学んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の向上を目指し、持久走大会の方向性を見直し、4年生以上の学年で八橋陸上競技場で陸上運動を実施する。 ・学校医を指導者として迎え専門的な立場でネット依存について考える場を設ける。 ・健康な生活について積極的に考えることができるように外部指導者を活用する場を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上のための取組について考えたい。食育を通して「食」に関する知識や意欲は高まっている。運動能力の育成にも積極的に取り組んでもらいたい。 ・歯磨き指導、あいうべ体操、栄養教諭の指導、救急救命講習など体に関した細かな指導がされている。継続してもらいたい。